

「南海トラフ地震」情報 !!

2月10日の新聞各紙に、南海トラフ地震に関するニュースが載りました。

政府の地震調査委員会は、2月9日、静岡県から九州の太平洋側に延びる南海トラフで、今後30年以内にマグニチュード8～9級の巨大地震が発生する確率を「70～80%」に引き上げたと発表したそうです。2014年に「70%程度」と発表されていましたが、今年確立が高くなったのです。また、今後10年以内の発生確率もこれまでの「20～30%」から「30%程度」に引き上げられた。50年以内の確率は「90%程度、もしくはそれ以上」という。



南海トラフ地震は、100年～150年の間隔で繰り返し発生しています。その発生間隔にはばらつきがあり、震源域の広がり方には多様性があることが知られています。昭和東南海地震、南海地震から70年以上が経過しており、南海トラフにおける次の地震の切迫性が高まっています。

30年以内というのは、30年後という意味ではなく、あす起きる可能性もあるということです。

AIで防災情報

2月12日NHKラジオ第一で「AIがラジオを変える」という番組がありました。今話題のAI(人工知能)を使ったラジオ放送のことです。特に、FMワカヤマのAIアナウンサー「ナナコ」が出演していました。災害時の情報発信に活用できるそうです。昨年の台風の時にその情報を深夜にも出した。「ナナコ」は日本語、英語で放送しているのです。

「稲むらの火の館」が雑誌に !!

「旅の手帖」3月号に稲むらの火の館が掲載されました。この雑誌は月刊の旅行情報誌です。3月号は「むかし町を旅する」という特集で、湯浅の伝建周辺が取り上げられ、サブタイトルが「和歌山の歴史に触れる旅」のコーナーに載せられています。

「館」の内部はもちろんですが、「広村堤防」役場前稲むらの火広場「梧陵像」の写真も掲載されています。

和歌山県の観光情報誌「紀州浪漫」春号にも稲むらの火の館が掲載されることになっています。



「稲むらの火」の物語の舞台、広川町を経て、醤油醸造発祥の地、湯浅町、そして有田みかんの産地、有田市へ。

サイクリングで巡るといふ物語で載せられています。

ミュージカル「稲ムラの火」公演

全労済和歌山推進本部は、全労済文化フェスティバルでミュージカル「稲ムラの火」の公演会を開催されます。

- ・ 4月14日 紀南文化会館(田辺市)
 - ・ 4月15日 県民文化会館(和歌山市)
- いずれも 15:00～16:45

入場は無料ですが、申込は必要です。

「稲むらの火の館」へお問い合わせ下さい。パンフレットもありますので、取りにお越し下さい。

濱口大明神縁起 (その14)

濱田康三郎 (かわせみより)

『淑女紳士諸君。御覧の通り、濱口氏はミス・ロレッツの思いもかけぬ質問の為にあまりに感激せられて、詳しい答弁を直ぐには致しかねるとのことです。それに何の無理がありません。先程嬢によって紹介されましたかの尊敬すべき日本の老長者は、わが濱口氏の実のお父様であるのだそうであります。何という不思議な因縁でありましょう。こうした小説的な事実は、一種の奇跡めいた感じさえされます。若し我々が濱口氏であるとしても、恐らくは我々は感極まって一語をも発し得られないであります。然しながら、我々は濱口氏の心情を思えば思うだけ、我々として、どうでもして、極く簡単にでも、此の席上で親しく同氏の口から、かの主人公に関するお話をうかがわずにはいられないという、自分勝手な欲望を起さずにいられません。どうか皆様は暫しの間、出来るだけ静かに濱口氏の興奮の少しく収まるのをお待ちになって、かの「生ける神」の後日談を、「生ける神」の愛子その人からお聞きなされますようお願いいたします。』

『ヒヤ、ヒヤ。』

遠慮深い掛声が三つ四つ、どこからともなく聞えた。

『そしてその間に、私は今同氏から聞いたばかりの一二の事実を、とりあえず諸君にお伝えする義務があるのを感じます。——ハーン氏のハマグチ・ゴヘイは、実は濱口儀兵衛の誤であり、そうしてわが濱口担氏は、彼の唯一の令息であるのだそうであります。』

我を忘れた会衆の拍手はホール中に高く鳴り響いた。

青年濱口は此の拍手の音を耳にして、涙に打ちぬれた顔をあげて会衆を見回した。そして殆ど超人的な勇気を奮い起して、卓子を頼りに身体を立上がらせ、沈痛な声をふりしぼって呼びかけた。

『淑女紳士諸君——』

会衆は一瞬にざわめきをひたと止め、聞き耳をそばたてて、じっと青年を仰ぎ見た。

『司会者デイオシイ氏は、極めて同情ある言葉をもって、私のために弁解して下さいました。申す迄藻無く、私は只今興奮のあまり、落着いてもものを云う丈の余裕を持って居りません。皆様にしても、私が現在どんな複雑な感情の渦巻の中にあるかを十分に理解して下さいて下さるであります。事実、私は先刻来、ロレッツ嬢のお話も途中からは殆んど大部分聞きとることが出来なかった位、そんなに心の平静を失っていたのでした。私の申しますところが順序をてん倒し断片的になるであろうをお咎め下さらないように、予めお願い致します。

(つづく)

~~~~~

<新聞記事から>

2月16日の読売新聞サイエンスBOXの欄に、人工衛星「みちびき」の記事が載っていました。「みちびき」は昨年中に3機打ち上げられ、それまでの1機と合わせ4機体制になり、全地球測位システム(GPS)の感度が良くなるという情報が流されました。



今回の記事は、防災の切り札ということです。避難所でスマートフォンやタブレットで各自の安否や名前など

を入力したらインターネットの専用サイトで公開され確認できるという。

この実証実験は昨年11月5日に、広川町広八幡神社で行われ、避難訓練に参加した人が行ったという記事です。一昨年も11月5日に「稲むらの火の館」で行われました。これが実用化されると、家族がばらばらに避難をしても、すぐに家族の安否確認ができることになり、安心感が増すこととなります。現代版の「津波てんでんこ」でしょうか。